

# 養育里親

## ～もうひとつの家族～

8

坂口 伊都

### 一歩前進

前は、養育里親を目指すために自分達の努力ではどうする事もできずに待ち続ける期間があり、「忍耐」がいるという実感をしている現状を書きましたが、そこから一歩前進している状態に変化してきました。ある小学生の子と我が家の交流が始まったのです。これから先、どうなっていくのか全くわかりませんし、第一歩という段階です。私達も初めてなら、その子も初めてです。初心者マークを貼りつけた者同士が交流している感じです。右も左もわからないまま出会い、話し、何をしようかと相談して決め、できたねと喜んでいきます。初めての出会いは、お互いに緊張して猫を30枚ぐらい被っていたのではないのでしょうか。いい所を見せたいという

意識より、お互いにどうしたらいいかわからない中、照れていたように思います。

当たり前の事ですが、人と人が出会うとお互いに何らかの影響を与えます。それは、子どもであっても同じです。この子と出会えた事で、家族の中にいろいろな変化が生まれています。今まで、長い待ち時間の中で頭の中でいろいろなシミュレーションを描いてきましたが、実際に体験してみると、こんな事が起きるのだと驚いています。一番心配していたのは、この子と息子、娘の関係です。この3人の子どもの関係が築けなければ、養育里親をしていく事は難しいと思っています。息子は何を考えているのかつかめないし、娘は大丈夫と言ったかと思えば、やっぱり嫌だと言って揺れていて、実際に会ってみないとどう反応するのか全くわかりません。この子に出会うにあたって、緊張してい

ました。

今回は、この子と出会う中での家族の変化について書いていきたいと思います。この子については、小学生という事だけお伝えさせていただきます。

## 夫

最初の出会いは、ある児童養護施設のキッチンが備え付けられた部屋で、その子とその子の担当職員、私達夫婦で食事をとりました。誰もが、慣れない場所で手探り状態での交流でしたが、ほのぼのとした時間を過ごせました。

次の出会いは、3人で過ごす初めての外出となりました。その子と私達夫婦で車に乗り込むも、最初は緊張してその子がコートのフードを被って固まったようになっていました。どうしたものかと思いましたが、妖怪ウオッチの話から徐々に笑顔を見せるようになってくれました。

この初めての外出で印象的だったのが、この子が夫を「お父さん」私を「お母さん」と呼んだ事でした。皆さんは、何故だと思いませんか？いい関係が進んでいるからだと思いませんか？私は、そうではないと感じました。

予想ですが、私たち夫婦は二人とも「坂口さん」です。どちらかを坂口で呼ぶというのは難しいですし、大人を下の名前で呼ぶ経験もほとんどないでしょう。それでは、この子にとって、呼びやすいと思われる呼び方は何でしょうか。私達がイメージするのは、「おじさん」「おばさん」です。でも、施設で育つ子どもが、その呼び方を使う機会がどれくらいあるのでしょうか。実習生やボランティア、児童相談所のワーカー等、様々な大人に出会いますが、ほとんどが〇〇さんと名前と呼ぶ事が多いはずです。様々な大人をおじさん、おばさんと呼んでいたら区別がつかいません。私にも児童養護施設のボランテ

ィアの経験がありますが、「おばさん」と呼ばれる時は中傷的な意味が込められていました。私は正真正銘のおばさんなので、そう呼ばれたところで、別に中傷にはならず笑いに変わっていましたが。

次に家庭生活の経験がほとんどなく、施設で暮らす子どもは、家族という概念が不明瞭である事が多々あります。その子も職員に「家に帰ったら、何人お父さんがいるの？」と聞いた事があるそうです。子どもの多くが、ある子には「お母さん」という人が施設に訪ねに来て外出や外泊をしているという事柄は、興味深く見聞きしています。そして、小学校に行けば、家から通っている子どもの方が多いい事もわかります。家には、お父さんやお母さんと住んでいるらしく、やさしかったり、やかましかったりするけど、何かいいものらしい。職員さんは、お父さんやお母さんではない。よくわからないが、お父さんやお母さんがいる家族に憧れる。自分もお父さんやお母さんが欲しいし、呼んでみたい。社会的養護の場では、曖昧な家族観を持っている子どもが多いと言わざるを得ないでしょう。

そのような想いを持っているところに夫婦で現れたら、呼んでみようかなと思っても不思議ではないと思います。お父さん、お母さんと呼んでくれるなら、私達夫婦はそれを受け入れようと思いました。この先、どのような展開になるかはわかりませんが、私達夫婦はこの子の家族になりたいと願っています。この子か息子、娘の誰かが嫌だと言え、一緒に暮らす事は叶わないかも知れませんが、それ以外の理由で話がまとまらない事はないと思っています。以前、ある施設の職員さんに子どもが全員納得して里親になるなんて事ができるのかと問われました。未だに答えはわかりませんが、意思表示ができる年齢の子ども達なら、大人側は子どもの想いを出せるような工夫をしていく努力が大切なのではないかと思っています。

この子が、施設で暮らし続けたいと願うのなら、週末里親としてこの子を支えていく方法もあります。縁があって巡り合った子ですから、私達家族でできる事は、何でもしたいと思っています。

夫は、里親登録の時に児童養護施設に実習に行き、言葉では聞いていたが家庭を離れて育つ子ども達を目の当たりにし、ショックを受けていました。こんなにいるのかと思ったそうです。夫は、いきなり「お父さん」と呼ばれた事にも驚きを隠せませんでした。おじさんと呼ばれると想像していたのに、この子はとても自然に、そして嬉しそうに「お父さん」と大きな声で呼びかけています。会う前までは、施設の男性職員も若い人ばかりだし、こんなおじさんに会って何を話せばいいのかわからなくて嫌がられたりしないか等、心配していましたから、出会ってみて、受け入れてくれたようだと言っておろしています。

夫は、この子を通して息子と娘が小さかった頃を思い出しているようです。息子と娘もこの子と同じような事が好きだったな。今まで遊びに行った場所にまた行こうかとニコニコしています。

## 息子と娘

私達夫婦は、夫は高齢者関係の施設職員で私は児童福祉関係で働いているので、縁があった子と向き合っていきたいと話し合っており、私達がこの子とは向き合えませんかと言う事はないと考えてきました。ただ、息子と娘は違います。日常生活を共にするのですから、子ども達の意見や想いを尊重しなければいけないと思っています。なので、息子と娘がどのような反応を示すのかは、最重要課題の一つで全く読めない未知なる世界でした。

日程の関係で、まず中学 3 年生の息子が先に会いました。たまたま、その子が金魚釣りに行きたいと言ったので、釣り好きの息子と一緒に試してみる？と声をかけました。中学 3 年といえば、思春期の受験生です。家族と出歩きたがりません。最近では、外食も嫌だと言われていたのですが、その時の返事は「行けたら行く」でした。約束の日の前日まで、息子が一緒に来るのかどうかわからず、ドキドキしていたのですが、行けると言ってくれました。

息子は全く愛想がないので、誰かに気を遣ってやさしく微笑みかける等はしない人間です。当日も施設の中には入らず車中でゲームを待っていました。その子にお兄ちゃんも来ているよと伝え、車に向かいました。最初の外出時では、とても緊張していたので息子との出会いも緊張するだろうと構えていましたが、その子は息子を見ると嬉しそうに近づいて行きました。私の予想はずれ、息子もゲームについて教えて始めています。あれ、私は邪魔かしらと思い、途中から後部席から助手席に移り子ども達が後部座席を占領して私の悪口を言ったりして笑っています。この子の大人と子どもに対する反応が全く違って驚きました。よく人見知りが始まった赤ちゃんが大人と目が合うと泣きますが、子どもだと平気な顔をしている事があります。子どもにとって、大人に出会うのと子どもに出会うのでは意味合いが違うのでしょうか。大人として、子ども同士の自然さが羨ましく感じます。

金魚釣りを始めると息子は、自分の釣りに忙しくこの子に話しかけずに熱中していました。この辺りは、さすが子どもです。この子は、夫と私の間に入り金魚釣りの初体験をしていました。最初、釣れた金魚を触りましたがヌルヌルして気持ちが悪いと夫に取ってもらっていました。途中から息子の横に行ったり、夫の横に行ったりしながら楽しんでくれたようです。

この子は息子が気に入ったか、いつも横にい

ました。息子も愛想よくしているわけではないのですが、何となく相手をしながら面倒をみていて、私の知らない部分の息子を見せてもらったと感じています。

その後、どこかで夕食を取ろうと商業施設に入ると、空中に舞うくじ引きをしていました。子どもが反応しないわけがありません。この子もしたいと訴えてきました。じゃあ 1 回だけねと言うと、そこで息子がボソッと「俺は、こういうのさせてもらえなかった」とぶつけてきます。噂には聞いていましたが、きたかこの瞬間。実子は、自分の子ども時代と比べて、してもらわなかった事に対して猛烈に抗議してくるものだ聞いていました。思わず息子に「あなたもする？」と聞いたら「俺はいらない」と答えていました。この子は、2 回したいと訴えかけてきたのですが、そこは息子を立てて 1 回だけねと返しました。冷や汗ものです。同じようにしないと子どもは嫌なのでしょうね。これからこんな場面に遭遇していくのかと頭が痛くなりました。

子ども同士の関係ができていく過程は、なかなか興味深いものがあります。子ども同士の関係といえば、飾り物を巡って面白い動きがありました。この子と息子の初めての外出の時に 100 円ショップで息子が飾り物に惹かれていいなあと見ていました。欲しければ、買い物カゴに入れておいでと伝え、夫が持っている買い物カゴに入れました。それを見て、この子がこれ何？と聞くので飾り物だよと教えると自分も欲しいと言うので、好きなものを選んでもらいました。娘の分もいるかなと頭をよぎりましたが、その場にはないので買わないで帰りました。すると、二つの飾り物を見て、娘が私の分がないと言いました。100 円ショップで好きなものを買ってきたらお金をあげるからと答えると、後日本当に買ってきました。



何か 3 きょうだいの始まりのようで笑ってしまいました。この時は、まだこの子と娘は出会っていません。娘は家族からこの子のお話を聞いているだけでしたが、自分が入っていないのは嫌だったのでしょうか。小さい頃から兄と妹、同じように渡さないと納得しなかった事を思い出します。

その後、中学 1 年生の娘が、この子と初めて出会ったのは我が家でした。この子は我が家に来た時、とても興奮していました。興奮のせいで言葉使いが荒くなったりしているのがわかりました。その興奮を息子は流すように相手をしていて、息子が大人になっていると感じました。息子が穏やかに接した事もあって、この子の興奮も和らいできましたが、それでも興奮は残ります。

娘はこの子の印象を「口が悪い。意地悪をする子」だと言いました。意地悪は、我が家にいる 2 匹のミニチュアダックスフントに対してです。犬というのは、子どもが抱っこしようとして追うと逃げますが、怖がって犬から逃げようとするので追いかけてきますから、後者だったこの子は犬に対して、あっち行ってとなるわけです。犬もあなたの事が好きだよって近づいてくるのだよと教えながら過ごしましたが、もうこっちに来るなと逃げています。この日の最後には、

恐々ですが犬を少しなでるようになっていました。

辛口の娘でしたが、この子に対して「でも、やさしいところもある」と付け加えていました。じっくりとこの子を娘は見ているようでした。この子が娘に気を遣っているようには見えなかったのので、この子の何気ない行動から娘は何かを感じ取ったのでしょうか。その後娘は、この子に自分が持っているカピパラのぬいぐるみをプレゼントしていました。

息子も娘もこの子の兄や姉のように接しているのかなと見ていて感じます。家族全員がこの子と出会った次の外出で、買い物目当てもあるのですが、息子も娘も施設まで一緒に迎えに付き合ってくれました。車中に夫婦と子ども3人が乗っている図がとても新鮮に感じました。後部座席で子ども達が、それぞれに好きな事をしています。この子が、家族に対して自然に関わってくれている事が有難いなと感じますし、この子の力なのだろうと思います。もしかしたら、家族というしっかりとした概念がない事が自然さに繋がっているのかも知れません。

## 私

母である私には、何が起きているのでしょうか。一番印象深く残っているのは、この子が初めて我が家を訪れた時です。この子といつも行くスーパーで買い物をし、我が家で過ごしている事が何とも言えない不思議な感覚に陥りました。不快ではないのですが、クラクラしていました。私は、児童福祉関係の仕事をしているのでいろいろな親子に出会ったり、ケース会議をしたりしています。それは仕事なので、生活圏の中で起きる経験はありません。仕事と生活圏が分離している事が当たり前となっていました。養育里親をしようとしているので当然の

ことなのですが、今であっている子どもは、社会的養護の場で生活をする子どもであり、なおかつ私の生活圏に存在する不思議な立ち位置にいるのだと改めて実感しました。それは、外出している時には全く感じなかった感覚なので、生活圏と一緒にいるという事が特別な意味を持った行為であると気付いた瞬間でもあります。

生活圏内に初めてその子と私が遭遇した時は、不思議な気分になりましたが、その次からの違和感はありませんでした。お互いに慣れたのでしょう。一度経験した事がある場所として、犬も含めて落ち着いて過ごす事ができました。洗濯物を畳んでいる私の横で、寝ころびながらゲームをして話している姿は、日常生活の一場面のそのままです。トイレが怖いからついてきて、そこにいてと言われると、懐かしい記憶が甦ります。ちなみにこの子にトイレの使い方を教える時、ここのトイレは男の子も女の子もみんな使うからね。あなたも使っていていいからねと伝えました。施設では、男性用トイレと女性用トイレが区別されていますし、学校でも外出時のトイレでも男女別のトイレになっている事がほとんどなので、あえて伝えました。伝えたからといって、すぐに使えるわけではなく、トイレに行った？と確認してから、出なくてもいいから一緒にトイレに行こうと誘いました。その時に怖いからドアを閉めないでと言われて、家のトイレは子どもにとって怖いものだったと気付きました。

スーパーでの買い物、犬の散歩、大皿にもられた料理等、私達家族が日常的にしている事がこの子にとっては珍しい出来事の遭遇の連続になっています。こうして私達と過ごして疲れがたまっていないかなと心配もしますが、「施設に帰っても暇だから、晩ご飯食べてから帰る」や「今度はいつ？」と言われると、一緒にいたいと思ってもらえているのかなと思います。

この子と離れていても、子ども服を見ればこ

の子に似合うかなと思い、チョコレートを見ればこの子が好きなんだよなと思い出しています。自分自身の事を客観的に見るのはなかなか難しいですが、いつも私の中にこの子がいるのは確かです。焦らないで、この子と私達家族の関係が築けていける事を大切にしようと思っています。

## 最後に

この子との関係は、冒頭にも書いたように、今後どのような展開になるかはわかりません。家族として一緒にいられるようになればいいなと願っていますが、私達家族内だけで完結する事柄ではないので、これからいろいろな課題と直面していくのでしょうか。その度に家族と話し合っ、どうしていくかを考えていければいいと思っています。

里親制度というのは、受け入れ側だけが何かをしてあげるのではなく、小さなこの子が私達家族に与える影響もとても強いと実体験しています。家族の間でのこの子が次いつくるの等の話題が増えています。思春期に入った息子と娘は、家族と過ごす事を敬遠していましたが、気づけばこの子を囲んで家族が勢揃いしています。夫婦の会話もつきません。この子は、私達家族の接着剤のようです。この子がいることで、やさしい感情が芽生え、何やら突き動かされる行動が生まれています。これは、この子の力なのだろうと思います。新しい出来事が苦手なはずなのに、それを私達と一緒に過ごしてくれています。この子にとって、私達家族はどう映っているのでしょうか。我が家の最初の一步は、こんな感じです。